



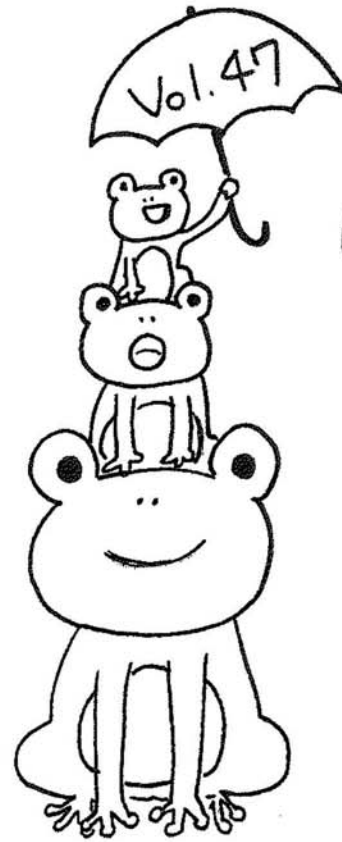
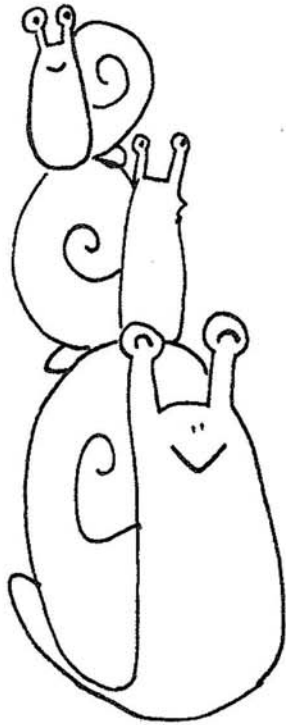
6月号



と

よ

たち



美肌通信

表紙

かえるさんとかたつむりさんが仲良く並んでいます。てるてる坊主もにこにこ笑顔。雨粒がきらきらしています。雨の中でも楽しくなれる今月の素敵な表紙です。音楽、特に嵐が大好きと教えていただきました。得意なことはトロンボーンを吹くこと。笑顔の素敵な女の子が描いて下さいました。雨の季節も、楽しく元気の出る素敵な表紙です。院長はじめ、スタッフ一同心より感謝いたします。



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮膚科クリニック \* \* \*

以前読んだ本を思い出した出来事が最近ありました。乳幼児の患者様が少なくない当院の外来診療中のことです。

3、5才程の患者様。特段の痛みを伴う事など無い治療にも拘わらず、私が「〇〇ちゃん。診せてねっ！」と近づくと堰を切ったかの様な最上級の号泣。その子を丸で人攫いから守るかの様に母親はぎゅっと抱きしめる。

「お母さん、診察なのでよく診ますのでー」 っと言ったが、うんでもなければ、すんでもない。私が患者から3m程距離を置くとスイッチを切ったかの様に泣きやむ。再度近づくと再びの号泣。親が子供をコントロールしているのではなく、子供が親をコントロールしている。

明らかに親が操られていると感じた一コマでした。子供はバカではありません。むしろ利口です。こんな態度をとると親は保護してくれると学習したのでしょうか。

思い出した本の内容に話を戻します。

内容は次の通りです。

“皆さん、東昇先生という先生のお名前、聞いたことありませんか。京都大学の名誉教授で、一ミリの百分の一、こんな小さな世界を研究していらっしゃる先生です。日本で初めて電子顕微鏡をおつくりになった先生です。

この東先生がね、猫は生まれてすぐ人が育てても猫に育つ。犬は生まれてすぐ人が育てても犬に育つ。ところが、人間は人間の子に育つとは決まっていない。今日の学者の定説では、約五千通りの可能性を持って生まれてくるとおっしゃっているんです。” ——①

この本によると人間は人間が育てないと人間には成れない。人間には五千通りの可能性があるという話です。過保護というものさしには難しいものがありますが、自立や成長が出来ない子に圧倒的に多い原因は過保護ではないでしょうか。それで育ってしまうと困難を避けてしまう大人になるのは当然のことと思います。

私はこの本を子供に読ませています。

皆様の中にもこの本が気になられた方がおられましたらぜひ私に声をかけてください。ぜひご子息に読んで頂きたい一冊です。

特に10代前半、もちろん早ければ早い程良いと思います。

院長・拝

———① 本文の後に続く二人の子供の話は学者間でも信憑性に欠けるとの声があります。しかし、この本が良質であることを疑う理由にはならないと考えます。